

線状降水帯に関する情報を改善し、 地域における早期の防災対応につなげる

【対策】113 線状降水帯の予測精度向上等の防災気象情報の高度化対策

対策概要：国民の命とくらしを守るため、大雨等に対する防災気象情報の高度化に向けた以下の対策を実施。

- ・線状降水帯の予測精度向上に向けて水蒸気量等の観測強化、海洋気象観測船の更新等による観測の継続性強化を行う。また、次期静止気象衛星について、令和5年に整備に着手。
- ・最新のスーパーコンピュータシステムの導入により計算能力を強化するとともに、解析・予測技術向上に向けた開発体制を強化、情報システムの更新等により防災気象情報の高度化を実施する。

府省庁名：国土交通省

【事例】線状降水帯の予測精度向上に向けた取組

- 実施主体：気象庁
- 実施場所：全国
- 事業概要：線状降水帯の予測精度向上のため、水蒸気観測機器の整備や強化したスーパーコンピュータを活用した予測技術の開発等を進め、以下の情報提供を開始した。今後も段階的に線状降水帯に関する情報を改善する。
 - 線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを開始（令和4年6月）
 - 線状降水帯の発生をお知らせする情報をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始（令和5年5月）
- 事業費：-
- 効果：令和5年の出水期も、台風や線状降水帯等による大雨が発生した。線状降水帯による大雨発生の可能性について半日程度前からの呼びかけや、線状降水帯の発生をお知らせする情報発表の前倒しにより、線状降水帯による大雨の危機感をより早く伝え、自治体の早期の防災対応に寄与した。

線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

令和5年実績

	運用開始前の想定 (令和元年～3年のデータから検証)	令和5年
適中	4回に1回程度	22回中9回 (※)
見逃し	3回に2回程度	23回中14回

※ 適中した9回以外にも、3時間降水量が150mm以上となった事例が3回あり

線状降水帯の発生をお知らせする情報発表の最大30分程度前倒し

